

【ノン雑草】



特許出願中

1. 概要

「ノン雑草」は歩径路、道路の中央分離帯、公園などを対象とした骨材表面に撥水・粘着性のアスファルトを塗布した防草資材です。「ノン雑草」を土壌表面に5cm以上の厚さに施工することにより、周囲から雨水や風によって施工面に飛来する、雑草種子の発芽が「ノン雑草」の撥水性により阻害されます。一方、「ノン雑草」は高い透水性を有するため、施工面より下方に植栽された緑化木には影響しません。

◇防草効果

表1 ノン雑草の防草効果

処理区	施工32ヶ月後の防草効果(発生本数/m ²)		
	メヒシバ	コセンダングサ	オナモミ
ノン雑草 5cm厚	0(0%)	2.6(3.3%)	0(0%)
無処理区(畑土壌)	116(100%)	80(100%)	12(100%)

施行日:平成25年4月30日



処理区



無処理区

2. 本防草技術の特徴

① 高い防草効果

発生する雑草の種類に応じ下記に示す3つの工法があります。

工法1:メヒシバ、コセンダングサ、シロザを始めとする多くの一年生雑草の種子発芽を長期間(実証試験:3年間)抑えます。

工法2:道路縁石と歩道および車道の境界(目地)から発生する雑草を抑えます。

工法3:地下茎などで栄養繁殖するタケ科、ササ科、イタドリ、ススキなどの多年生雑草には効果が小さいので、これらの多年生雑草を対象とする場合には、ノン雑草資材の施工に先立ち除草剤処理や伐根処理などを行なう。

② 高い安全性

アスファルトは道路舗装資材として広く使われており、その環境や人畜に対する安全性は既に実証済みです。また、水に難溶で揮散し難いことから、施工場所周辺の生態系や環境に負荷を掛けない安全な資材です。

③ 高い施工性

「ノン雑草」は適度な粘性を有していることから、平坦な場所だけでなく、傾斜面(法面)にも容易に施工できます。また、ツツジ、サツキ、ハナミズキ、などの緑化木を植栽することもできます。

3. 防草メカニズム

高い撥水性を有する「ノン雑草」を土壌表面に一定の厚さに敷設することにより、水の滞留しない人工層が形成されます。一方、雑草種子は時間の経過とともに、風雨などにより周囲から施工面に持ち込まれますが、雑草種子の吸水は「ノン雑草」の撥水性により阻害され、その結果、発芽が抑えられます。

4. 施工事例

①

施工前状況



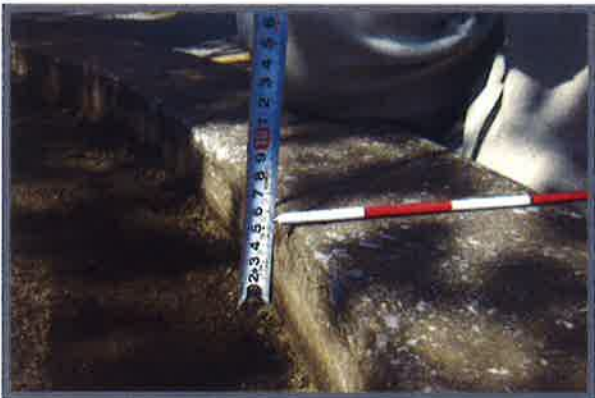
②

表土すき取り完了



③

すき取り深さ 50mm



④

「ノン雑草」敷均し状況

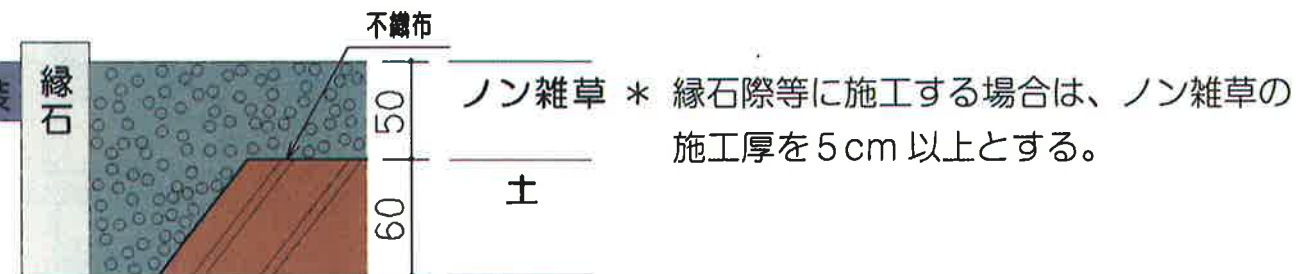
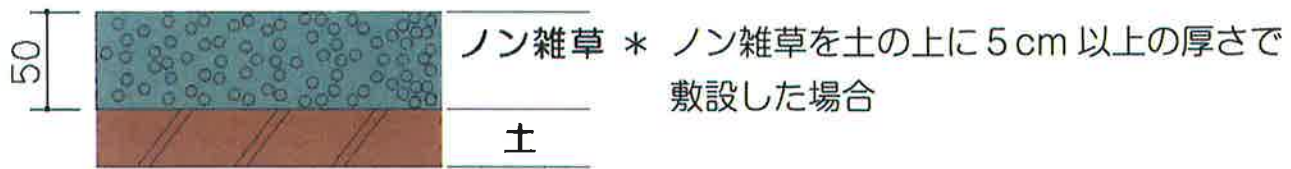


⑤

施工完了



施工断面



特許共同開発

国立大学法人宇都宮大学

株式会社 清水造園

株式会社 八幡

お問い合わせ先

株式会社 八幡

〒321-0905 宇都宮市平出工業団地45-2 Tel:028-661-0711

販売店